

江戸期古絵図に描かれた頂妙寺境内図  
当時、庶民の尊崇厚く靈験顯著な仁王門の前には拝殿が設けられていた。(『都名所図会』より)



頂妙寺版法華經は天保  
五年に洛東の津田源兵  
衛によつて刻された。そ  
の後、文久元年、明治十  
八年に改版され、さらに  
昭和四十一年に梵本と  
勘校され出版された。

毎月一日 午後二時…… 憲靈法要  
毎月八日 午後一時…… 壹万遍唱題修行  
毎月十五日 午後二時…… 開山会永代祠堂  
毎月二十二日 午後二時…… 義見宮祭  
三月 結岸 午前十一時…… 春季彼岸会法要  
八月十六日 午後二時…… 孟蘭盆会法要  
九月 結岸 午前十一時…… 秋季彼岸会法要  
十一月十二日 午前十一時…… 宗祖報恩会式  
十二月八日 午後二時半…… 三天王祭  
甲子 日 午後二時…… 大黒天祭

安産腹帶授与

洛東本山 頂妙寺

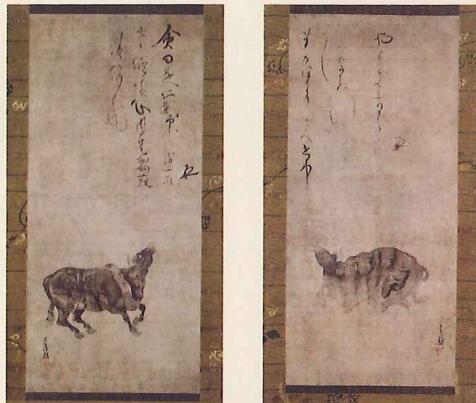
## 新頂妙寺版法華經

### 当山の年中行事

平和祈念



仁王門に安置された毘沙門天(多聞天)  
鎌倉時代の仏師、運慶・快慶作伝



◆文化財 江戸時代、17世紀、俵屋宗達筆、公卿・歌人の烏丸光廣賛の紙本墨画「牛図」2幅(京都国立博物館寄託)は、墨のたらし込みの技法により牛の逞しい筋肉を表現している。彫り塗り、白で描く線などの筆法も用いる。光廣は、右幅に和歌、左幅に漢詩を入れ、繋がれない生き物の自由を讃え、江戸幕府による縛りに対して抗した。

**文化財・霊宝** 宗祖日蓮聖人のご真筆曼荼羅本尊、遺文をはじめ、「三大部炉談」百三十五巻、真如院日等上人の『祖書辨見事』、頂妙寺版法華経版木、「京都十六本山会合用書類」等があり、近世宗教史研究に重要な文献資料となっている。その他、重要文化財として俵屋宗達筆「牛図」など多数の美術品を格護している。



⑧ 大黒堂



① 大本堂



② 客殿

### 御開山妙國院日祝聖人御尊像

平成二十四年 御開山妙國院日祝聖人第五百遠忌にあたり祖師堂並びに御開山御尊像修復。



祖師堂内陣



### 大本堂

須弥壇は正面上段に一塔兩尊四士像が並坐され左右に文殊・普賢菩薩、四方に四天王が配置された本尊形式で正面には大覚大僧正妙実作と伝わる日蓮聖人像が安置されている。



大本堂内陣

開法山頂妙寺は、京都二十一大本山の一つとして、日蓮宗の繁栄を担い続けた由緒寺院である。下総中山法華經寺の妙國院日祝上人が上洛布教し、文明五年(1473年)土佐の守護細川治部少輔勝益公の帰依によって洛中に開創された四丁四方の広大な伽藍であった。

その後、足利將軍家や近衛政家、尚通父

子ら公家方をはじめ、京都町衆の外護を受けて大いに発展した。やがて法華一揆が起るや頂妙寺は重要な拠点となり、天文法難(1536年)に拠り堂宇焼失し、堺に移るが天文十五年(1546年)帰洛復興する。

天正七年(1579年)織田信長の策謀により安土宗論に破れ宗風は一時衰微するが秀吉の時代になり理非を明らかにされ、却つて御朱印十二石を寄せられた。この宗論で有名な当山第三世仏心院日瑞上人は学僧として叡山衆徒に三大部を講じている。また文禄三年(1595年)には家康によつて中山輪司の式を定められた。

以後、延宝元年(1673年)の京都大火や天明の大火によつて焼失し、現在の堂宇は天明の大火以後の建立である。

当山は波瀾万丈の歴史を歩んできたが、第二十世真如院日等上人の日蓮聖人御真蹟影写や頂妙寺版法華經の印行など顕著な学問的業績を築きあげている。

戦後の荒廃甚だしく伽藍の整備が急務となり、客殿、庫裡新築完成に続き、縁祖了義院日達上人第二百五十遠忌慶讚事業として大本堂大改修。平成二十四年 御開山妙國院日祝聖人第五百遠忌にあたり祖師堂並びに御開山御尊像修復。

事業として、祖師堂修復御開山妙國院日祝聖人御尊像修復書院新築をし寺觀を開いた

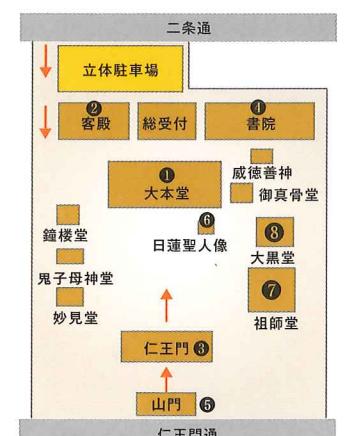
(第八九世 日瑛代)

## 頂妙寺

### 略記



仁王門に安置された持国天  
鎌倉時代の仏師、運慶・快慶作伝



● 主な建造物 境内中央には天保十一年(1840年)建立の大本堂、南には町名「仁王門通り」の縁由をなす仁王門(持国天、毘沙門天)があり、中天には東山天皇より賜わった「開法山」の山号と安土法難殿があり、両側には山内八ヶ院が立ち並んでいます。